

# 国立大学法人高岡短期大学の平成 16 年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

高岡短期大学は、教育を重視し、実践的、経験的な熟練教育を実施するとともに、感性豊かな地域で活躍できる人材の育成を行い、地域社会に対し、各種の知的サービスを提供し、地域の産業・技術・文化の発展や生涯学習の推進に役立つ地域と共に発展する短期高等教育機関となることを目標としている。

平成 16 年度は、法人化初年度にあって、17 年 10 月に富山大学と富山医科薬科大学と統合し、4 年制大学となることが決定しており、統合を目指しつつ法人化への対応が求められる状況の中で努力がなされている。

特に教育研究活動の活性化を図るため、実績等に応じた研究経費を配分して教員のインセンティブを高めている点は評価できる。具体的には、研究経費にインセンティブ経費を加え、学生の投票により選出されベスト・ティーチャーとなった者や科学研究費補助金に新規に申請した者等に対して 5 万円を上乗せして配分した。また、公開講座や公開授業について、開設時間数等をポイント化して評価を行い、ポイント数に応じた経費配分が実施されている。

また、学長補佐 5 名を置くなど体制の整備を図っている。特に再編・統合への対応やこの大学が再編・改組して設置する予定の芸術文化学部の広報に力を入れている。

自己点検・評価については、学生による授業評価を実施し、教務委員会で学生による授業アンケート結果を分析し、学生の意見に対する授業改善策を各教員から提出させたことに加え、報告書としてまとめて公表されている。

特色ある大学教育支援プログラム、現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムがそれぞれ 1 件採択されていることは、小規模短期大学として評価できる。

さらに、この大学では、就職支援のため、教員が就職内定先企業を中心に企業訪問を実施するなど、学生に対しきめ細かな対応がなされている。

なお、この大学が再編・改組して設置する予定の芸術文化学部に関し、統合のメリットを生かしつつ、さらには、短期大学と 4 年制大学との違いにも留意しながら、目指すべき方向を明確にして更に飛躍することが期待される。

## 2 項目別評価

### (1) 業務運営の改善及び効率化

- 運営体制の改善
- 教育研究組織の見直し
- 人事の適正化
- 事務等の効率化・合理化

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される（又は課題がある）。

学長補佐 5 名を置くなど体制の整備が図られている。特に再編・統合への対応や大学が再編・改組して設置する予定の芸術文化学部の広報に力を入れている。

経営協議会は平成 16 年度に 4 回開催されており、企業等への PR 活動の重要性等が指摘され、対応策が講じられてきている。

学生の投票により選出されベスト・ティーチャーとなった者や科学研究費補助金に新規に申請した者等に対して 5 万円を上乗せして配分、また、公開講座や公開授業について、開設時間数等をポイント化して評価を行い、ポイント数に応じて経費を配分(平成 16 年度は 160 万円)しているなど教育研究活動の活性化を図るため、実績等に応じた研究経費を配分して教員のインセンティブを高めている。

常勤職員の定員管理は学長が一元的に行うこととし、教員の欠員 2 名について全学的見地から補充採用を検討・決定するとともに、教員に裁量労働制度が導入された。

監事の業務実施状況については、平成 16 年度は状況把握が中心であり、今後、効果的に機能することが期待される。

本項目については、評価委員会が検証した結果、年度計画の記載 15 事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

## (2) 財務内容の改善

外部研究資金その他の自己収入の増加

経費の抑制

資産の運用管理の改善

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される(又は課題がある)。

各種研究助成制度の募集通知等がその都度全教員に e メールで周知されている。

公開講座の実施や体育施設等の開放について利用状況、使用料金等をウェブサイト一般公開するなど外部資金の獲得に努力がなされている。

財務会計システム、物品請求システム、ファームバンキング等の導入により、省力化、合理化が図られるとともに、電話料割引制度の加入見直し、電気料の契約電力見直しや新たに宿舍管理業務を外部委託(約 165 万円のコスト節減)するなど経費節減対策が行われた。

財政計画方針は策定されておらず、中期期間中の人件費所要額を見通したシミュレーション等の財政見直しも作成されていないが、統合後に改めて財政計画が策定されることが求められる。

本項目については、評価委員会が検証した結果、年度計画の記載 10 事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(3) 自己点検・評価及び情報提供  
評価の充実  
情報公開等の推進

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

国立大学法人評価の一環で、年度計画各項目の主たる実施担当に自己点検・報告の実施を求め（11 月と 2 月の 2 回）、未実施項目の実施促進を図ったこと、教員評価についての基本的な考え方について検討し、平成 17 年度には取りまとめる予定としていることなどから、自己点検・評価への積極的な姿勢が伺える。

学生による授業評価を実施し、教務委員会で学生による授業アンケート結果を分析し、学生の意見に対する授業改善策を各教員から提出させたことに加え、報告書としてまとめて公表されている。

情報・広報委員会に広報専門委員会を設置し、富山 3 大学統合後の芸術文化学部の戦略的広報について、実施計画を策定した。全国的な認知度向上を目指した各種イベントの実施や広報冊子の作成、ウェブサイトの作成等を実施するとともに、全国の高等学校 76 校及び予備校を訪問し、芸術文化学部の情報提供及び PR 活動が実施された。

本項目については、評価委員会が検証した結果、年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(4) その他業務運営に関する重要事項  
施設設備の整備・活用等  
安全管理  
北陸地区の国立大学連合

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される（又は課題がある）。

芸術文化学部設置準備委員会の下に施設・設備部会が設置され、再編・統合後の新学部設置を見通した点検、調査を実施するとともに、新学部ゾーニング及び年度別改修計画が策定された。また、新学部設置に向けた広報活動を行うための広報作業室も整備されている。

「災害対策要項」、「災害時の防災体制と非難行動指針」及び「災害対策マニュアル」を策定するなど安全教育に力が入れられている。

施設の有効活用の取り組みが望まれるとともに、中長期的な計画に基づく整備が望まれる。

本項目については、評価委員会が検証した結果、年度計画の記載 10 事項すべて（重要性等を勘案したウエイト反映済み）が「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められるが、施設の有効活用に関する取り組みが十

分でないこと等を総合的に勘案すると、進行状況は「おおむね計画通り進んでいる」と判断される。

#### (5) 教育研究等の質の向上

評価委員会が平成16年度の進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

特色ある大学教育支援プログラム、現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムがそれぞれ1件採択されていることは、小規模短期大学として特筆される。

就職支援のため、教員が就職内定先企業を中心に、企業訪問を実施するなど、学生に対しきめ細かな対応がなされている。

地域社会への貢献の一環で、大学開放センターにおいて、技術相談等が実施されている。